

(第2回 午前)

2024(令和6)年度適性検査問題

適性検査Ⅰ

(実施時間：45分)

《注 意》

- (1) 問題は 1 のみです。
- (2) 解答はすべて解答用紙に書いてください。
- (3) 受験番号、氏名を忘れずに書いてください。
- (4) 解答用紙のみ回収します。

城西大学附属
城西中学校

1

次の文章1と文章2を読み、あとの問題に答えなさい。

文章1

① これからの時代、これまでとは少し違^{ちが}った勉強をする必要がある。

これまで考えられてきた勉強というものは、大体において「知識」、ないし情報を取り込むことであつた。小学校からひたすらに知識を頭に入れ、試験の時にはその知識を使って答案を書いて、点をとるのである。この知識というものは、大変有用であると考えられている。したがって知識をたくさん持つことは、その人間の価値を高められるのである。しかし、満点の答案を書こうとしている人たちが持っているような知識がたくさんあっても、それは本当の人間の力ではない。

問題は、それが本当に人間として大事な能力であるのかどうかだ。ただ知識ばかり集めて喜んでいると、だんだん馬鹿になる。もともと、学校でこんなことを考えたら授業を行うことができなくなってしまう。それで、そういうことは言わないことになっている。

小学校からだんだん知識が増えていき、それと引き換^かえにどんどん頭がはたらかなくなってしまう。ここで言う「頭が悪い」というのは、「新しいことが考えられない」「判断をする力がない」ということ。

知識が増えると、どうしてもその知識をそのまま使用して物事を処理しようとしがちになる。自分自身で考えることが、つついとおっくうになりがちだ。本に書いてあることをそのまま頭の中に入れ、それによっていれば自分で考える必要はなくなる。

知識をありがたがるのは歴史的なもので、どうにもならないこともある。ヨーロッパでは一六世紀の終わり頃^{ころ}には、知識というものは社会的価値を持っているという考え方が確立した。以来、教育機関はとにかく知識を身につけることを教えた。それが大体今も続いている。

詰め込んでいけば、頭の中はいずれ知識でいっぱいになるが、それは良いこと、素晴らしいことだとみなされる。だが本当にそうだろうか？ 自分の頭の中が、他人が考えた知識、本に書いてある知識で満杯^{まんぱい}になることが、そんなにいいことだろうか？ トンデモないことでむしろ逆だ。そんな知識だけの頭では身動きが取れなくなってしまう。いわば、知識メタボリック

症候群。^② 知識のぜい肉で太ってしまつと、軽やかで柔軟な思考など到底望めなくなる。

知識メタボリック症候群の人は、一〇〇点満点の答案を書けるかもしれないけれど、この先三〇年もすれば、結局はつまらん人間にしかなりえないということがわかってくるだろう。心ある人は自分の責任で、自分の力でものを考えて行動できる人間でなければいけないと気づくことになる。例外はもちろんあるけれど、だいたいにおいて知識が増えると、ものを考える力が減っていく。知識と思考の間では反比例の関係が成り立つのである。

物知りはだいたいにおいてものを考えない傾向がつよい。古くからこれを「物知りの馬鹿」と言った。他にも、「なんでも知っている馬鹿」とか「学問のある馬鹿」などもこれに当たる。つまり、知識はあるけど、自分でものを考える力、新しいことを考え出す力がない人のことである。これは人間としてはあまり高級ではない。そういうことは昔からすでにわかっていた。しかし一方で、常に満点の答案を書けるような、正確な記憶をもっているものは人間以外に存在しなかった。そこで記憶力の優れた人間が、尊重されてきたのである。

ところが、今からおよそ六〇年前に、二〇世紀中ごろ、かのコンピューターというものが登場した。これは人類にとって大事件だった。いくら優秀な人間でも知識を詰め込むには限界がある。それに対して、コンピューターの記憶は正確無比だ。記憶、知識に関して人間はコンピューターに勝てるわけがない。実際、さまざまな場面において人間はコンピューターに負け、仕事を奪われてきた。

近年は大学まで出た人が就職難でウロウロしているけれど、コンピューターに仕事を奪われた結果だと考えられる。大学を出ても知識や事務処理についてコンピューターにかなう能力を持つている人はすくない。合理的に考えれば、知識しかない人間などもはやいらないうこととなる。なぜなら、コンピューターのほうがずっと能率がいいからだ。優秀なコンピューターを一台備えれば、何十人ぶんの、いわゆる事務的な仕事をこなしてしまう。下手な人間を雇うよりよっぽどいいわけだ。

これまでの人間は、のんびり知識だけ溜め込んでいれば、試験に合格することができた。試験に合格して学校を出れば、社会の中でエリートとして生きてゆかれた。しかしそんなのんき

な時代は、コンピューターの登場で終わってしまったはずである。

〔『何のために「学ぶ」のか〈中学生からの大学講義〉1』所収 外山滋比古 「知ること、考えること」〕

文章2

世界のいろんな国々を見てきて、日本の学校教育はレベルが高いし、よくできているな、と思います。教養を身につけるにはどうしたらいいか、と聞かれることがあります、特別なことをしなくても、中学・高校の授業を受けてしっかり勉強していれば、いつの間にか身についているから大丈夫です。あくまで、しっかり勉強した場合、ですが。

国語や数学などの主要科目以外にも、音楽や美術の授業があるでしょう。ヨーロッパの美術館へ行ってみると、中学校や高校の美術の教科書で見た覚えのある絵に出会います。有名な絵のタイトルや描いた画家の名前は教科書で見ていたから割と覚えているものです。さらに、ゴッホは後期印象派だとか、ピカソはキュビズムを始めた人だとか、ヨーロッパの人とそういう話ができるのは、学校で美術教育を受けたからです。美術は一部の学校を除けば受験科目でないことが多いのですが、世界の人と交わるにはとても大切な科目です。

音楽だつて^③ そうなのです。できれば、作曲家の名前を知るだけでなく、「モーツアルトの交響曲は何番が好き？」と聞かれたら、迷わず答えられるくらいだといいですね。

私自身、ヨーロッパのいろんなところへ行くと、ああ、この地名は聞いたことがあるとか、ああ、この絵は見たことがある、この曲は聴いたことがあるという経験をたくさんしてきました。日本の学校教育でいつの間にか教養を身につけていたのだな、と社会人になって海外へ行くようになってから気づきました。

ベルリンの壁が崩壊し、ドイツが統一されたときに、式典で演奏されたのがベートーヴェンの「第九」、正確に言うと交響曲第9番、第4楽章で歌われる「歓喜の歌」の合唱部分でした。

「歓喜の歌」はEU（欧州連合）の歌にもなっています。こちらは、歌詞のない楽曲だけを使用しています。ベートーヴェンの第九のようなクラシックの名曲は学校の音楽の授業で必ず聴きますよね。だから、日本人はその音楽が流れてきたら、ベートーヴェンの「歓喜の歌」だと

わかり、式典にふさわしい曲だと理解できる。これは、世界的に見れば結構すごいことなのです。

ちなみに、ベルリンの壁崩壊30周年の式典を取材したところ、その時はベートーヴェンの交響曲第5番「運命」が演奏されました。ああ、ドイツも大変なのだなと思いましたね。東西ドイツが一緒になるときは、本当に喜び一色で「歓喜の歌」を歌ったのに、30年もたついろいろな格差が広がったり、国内で分裂ぶんれつがあつたりして、「運命」が選ばれるようになったのだ、としみじみ感じたからです。

学校で勉強することの中には、こんなことを覚えても将来役に立つのだろうか、と思つてしまふものもあると思います。でも、学校で習うことは、今すぐに役に立たなくても、社会人になつてから、いろんな場面で本当に役に立ってきます。美術や音楽の授業で世界の文化に触れることが、大人になつて世界中の人と付き合うようになったとき、会話を弾はませたり、信頼しんらい関係かんけいを築いたりするのに一役買ってくれるのです。

だから、^④学校の勉強を一生懸命やつてほしいなと思います。すべての科目に学ぶ意味があります。私は、自分の核かくをつくつたのは中学・高校の教育だと実感しています。とりわけ、中学校までの学習内容をしっかり勉強しておけば、世界のどこに行つても「物知り」として通用することを、ぜひ知っておいてほしい。

あなたが勉強したことは、社会へ出てから、必ず役に立つときがくるのです。

（池上彰 『なぜ世界を知るべきなのか』）

問題

問一 ― 部①「これからの時代、これまでとは少し違った勉強をする必要がある」とありますが、筆者はどのような勉強が必要だと考えていますか。次の文の空らん当てはまるように**文章1**から二十二字で抜き出し、最初の五字を答えなさい。

これからは、
(二十二字)
を養っていくための勉強が必要だと考えられる。

問二 ― 部②「知識のぜい肉で太ってしまう」とありますが、それはどのような状態のことを指していますか。**文章1**の言葉を使って、説明しなさい。

問三 ― 部③「そうなのです」とありますが、「そう」が表している内容を、**文章2**から十八字で探し、抜き出して答えなさい。

問四 ― 部④「学校の勉強を一生懸命やってほしいなと思います」とありますが、筆者はなぜこのように述べていると考えられますか。「くから。」に続く形で**文章2**から二十文字で探し、抜き出して答えなさい。

問五 **文章1**と**文章2**について、あなたはどちらの筆者の意見に賛成しますか。その理由

を示した上で、筆者の意見と関連づけながら、あなたが理想とする中学校生活について、四百字以上四百四十文字以内で述べなさい。ただし、次の「条件」と、あとの「きまり」にしたがうこと。

〔条件〕

- ① 必ず、**文章1**、**文章2**のどちらに賛成か、自分の立場をはっきり示すこと。
- ② 理由には、これまでの（小学校などでの）体験を入れて、書くこと。
- ③ 段落分けは、三段落構成で書くこと。ただし、一段落目には自分の立場と、筆者の意見に共感する部分やその説明、二段落目には自分の考えの理由や体験談、三段落目には理想の中学校生活への思いをくわしく書くこと。

〔きまり〕

- ・ 題名は書きません。
- ・ 最初の行から書き始めます。
- ・ 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- ・ 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。会話を入れる場合は、行をかえてはいけません。
- ・ 〃、〃や〃。〃や〃」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に來るときには、前の行の最後の文字と同じます目に書きます。（ます目の下に書いてもかまいません。）
- ・ 〃。〃と〃〃が続く場合には、同じます目に書いてもかまいません。この場合、〃。〃で一字と数えます。
- ・ 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。
- ・ 最後の段落の残りのます目は、字数として数えません。